

満月の夜開くけいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」

2025 年春季 IIAS 塾ジュニアセミナー – 「独立自尊の志」養成プログラム – 募集要項

(1) 募集対象

高校及び大学の学生で、IIAS 塾ジュニアセミナー開催委員会において、受講を認めたもの概ね 20 名

(2) 応募方法

IIAS 塾ジュニアセミナー開催委員会事務局が管理する、Google フォームより必要事項を入力し送信。ただし、高校生にあっては、当該高等学校の教員の推薦及び保護者の同意を得たうえで「推薦書・同意書」を e-mail 又は郵送にて事務局宛てに提出する。申込締切は、2025 年 1 月 19 日（日）

(3) 受講決定

選考結果は、2025 年 1 月下旬、応募者本人宛て、「申込書」に記載された住所へ郵送により通知

(4) 開催日

【プレミーティング】3 月 16 日(日) 17:00~19:00

【受講日】2025 年 3 月 26 日(水)~28 日(金)

ただし、1 月下旬、受講決定者には、テキスト等の教材を配布・配信

(5) 開催場所

公益財団法人国際高等研究所

〒619-0225 京都府木津川市木津川台 9-3



2024 年 11 月

主 催：公益財団法人国際高等研究所 (IIAS 塾ジュニアセミナー開催委員会)

後 援：京都府・奈良県・滋賀県・和歌山県の各教育委員会 (予定)

協 力：京都大学、大阪大学



開講の辞

IIAS 塾ジュニアセミナー開催委員会
委員長 松本 紘
(公益財団法人国際高等研究所所長)



満月の夜開くけいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」は、2015年5月からは、西歐的「近代化」の先を展望するため、「日本の未来を拓くよすが（拠）を求めて」をテーマに掲げ、思想・文学、政治・経済、科学・技術の各分野にわたって、日本の近代化を導いた人々の思想と行動、そしてその光と影を追い、『新たな文明』の萌芽を探ってきた。

特に、2022年度からの取組みとして、「ゲーテの会」を中心とする<「新たな文明」の萌芽、探求を！>プロジェクトを立ち上げ、これまでの「ゲーテの会」の理念を継承するとともに、けいはんな学研都市の立地研究機関・企業等との連携を深め、新たな枠組みの下に人類的課題に立ち向かうこととしている。

こうした取り組みを通じて、日本の未来に思いを馳せ、「ゲーテの会」の構想の趣旨を体現する者の出で来ることを期待して、日本の未来を担う 18 歳前後の高校生、大学生を対象に、明治の教育者でもある福澤諭吉が目指した「独立自尊の志」養成プログラムを構想し、「IIAS 塾ジュニアセミナー」の開講を企画した。

その理（ことわり）は、現代社会において、経済成長至上主義的風潮もさることながら、教養教育の衰微の傾向の下で全人的人間形成が困難となっていることにある。次代を拓くには、遠くギリシャの先哲たちの声に耳を傾けるまでもなく、科学技術のみならず、人間力の基礎をなす哲学（理性）と芸術（感性）によって鍛えられた「独立自尊の志」を有する「全人」が求められている。それにより、高等学校、大学を問わず、心ある教育現場では、現代社会が待望するこうした人物養成への機運が高まっている。

IIAS 塾ジュニアセミナー「独立自尊の志」養成プログラムの開講は、こうした動きを背景にしてのことである。

本セミナーは、2021年度から2023年度まで、一般財団法人三菱みらい育成財団の助成を受け実施し、内容の充実を図ってきました。



プログラム (案)

(1) 日程 (時間割は、講師の都合等により、変更することがあります。)

■ プレミーティング 3月16日(日) 17:00~19:00

※ Google クラスルームを活用するなどオンラインにより実施。

【趣旨】 オンデマンド学習により認識を深めた課題・論点、質問事項等の共有、
及び受講決定者と担当 TA との交流懇談

【参加者】 受講決定者及び担当 TA

■ 当日受講

第1日目 3月26日(水)

10:00~10:30	受付 (国際高等研究所)
10:30~10:45	プログラム内容説明
10:45~11:45	自己紹介 (受講生／TA)
11:45~12:00	施設案内
12:00~13:00	<昼食・休憩>
13:00~13:15	開講式
13:15~15:45	【思想・文学分野】『ベルクソンに学ぶ—「直観」の哲学 ～世界の平和と人類の幸福のために～』 ・ショートレクチャー・質疑応答・グループ討議
16:15~17:15	TA 研究紹介
17:45~18:45	夕食
19:00~20:00	グループに分かれて交流・懇談

第2日目 3月27日(木)

7:30~ 8:30	朝食
9:00~11:30	【政治・経済分野】『岩倉使節団 150 年を機に「日本文明」の再興を考える ～受容する文明から需要ある文明へ～』 ・ショートレクチャー・質疑応答・グループ討議
11:30~13:00	<昼食・休憩>
13:00~15:00	【体験学習一心身の学】「アート思考」への誘い ～「対話型鑑賞」と「哲学対話」の協働を通じて体得する 「もう一つの知、身体知」～
15:15~17:45	【科学・技術分野】『「応用をやるなら基礎をやれ」化学者たちの 京都学派～福井謙一をはじめとする喜多源逸の後継者たち～』 ・ショートレクチャー・質疑応答・グループ討議
18:30~20:30	グループに分かれて交流・懇談

第3日目 3月28日(金)

7:30~ 8:30	朝食
9:00~10:30	全体討議
10:30~12:00	グループに分かれて意見交換・各自まとめ
12:00~13:30	<昼食・休憩>
13:30~16:00	レポート報告(各自)
16:00~16:15	<休憩>
16:15~16:45	講評
16:45~17:00	閉講式
17:30	解散

(2) 運営の形

ア. 事前準備

【Google Workspace・Classroomの活用について】

受講が決定した者は、使用する端末にGoogle Chrome ブラウザをインストールし、IIAS 塾ジュニアセミナー開催委員会事務局(以下、事務局)からの指示に基づき、Google Workspace のユーザー登録を受け、そのアカウントを取得する。

【学習について】

事務局からメインテキスト、講義動画等の教材の配布・配信を受け、事前のオンデマンド学習、また、受講者は討議したい事項等についてのレポートを受講届と共に提出する。なお、学習の促進を図るため、受講届を踏まえて、TAを交えてプレミーティングを実施する。

【『受講のしおり』について】※受講決定後、2月上旬に送付予定

参加に当たっての注意事項等を記載した『受講のしおり』、その他参加に当たり作成すべき書類の配布・配信を受け、当日に備える。

イ. 当日

講師からショートレクチャーを受け、質疑応答の形を取り、論点整理(テーマ提案)。その後、そのテーマを中心にTAを交えてグループ討議を行う。プログラムの最終日に、その討議結果の概要とともに、プログラムに参加して得たこと等についてのレポート報告を、受講者各自行う。

ウ. 事後

受講修了後1箇月を目途に学習全般及び各分野の学習内容に関するレポート(小論文)を提出する。

(3) 宿泊場所

公益財団法人国際高等研究所の施設内にある宿泊棟を用意。

(注) 1棟に数人が宿泊する合宿型

(4) 参加費

無料

ただし、自宅と会場までの交通費、及びセミナーパーク期間中（2泊3日）の宿泊食事代の一部（1万円）は、自己負担。

なお、メインテキスト及び講義動画は主催者が提供、サブテキストその他の教材は各自で入手するものとする。

(5) 使用教材

ア 思想・文学分野

メインテキスト	『「ベルクソン」に学ぶ—「直観」の哲学 ～世界の平和と人類の幸福のために～』
講 義 動 画	『「ベルクソン」に学ぶ—「直観」の哲学 ～世界の平和と人類の幸福のために～』
サブテキスト	ベルクソン著、平山高次訳『道徳と宗教の二源泉』岩波文庫（1953年）
講 師	<p>瀧 一郎（たき いちろう）大阪教育大学名誉教授</p> <p>1959年東京生まれ。開成中学・高校卒業。東京大学大学院人文科学研究科美学芸術学博士課程修了。1995～1997年フランス政府給費留学生としてパリ第I大学（哲学科哲学史博士課程）に留学。大阪教育大学名誉教授。文学博士（東京大学）、DEA（パリ第I大学）。専門は、美学、芸術学。（公財）天門美術館理事、（特非）文語の苑理事。主要著作に、『ベルクソン美学研究—「直観」の概念に即して—』東京大学大学院人文社会系研究科 博士文学ライブラリー、コンテンツワークス、2002.「想像と類比—ベルクソン的直観の論理」『美學』224、2006など。</p> 

イ 政治・経済分野

メインテキスト	『岩倉使節団 150 年を機に「日本文明」の再興を考える ～受容する文明から需要ある文明へ～』 IIAS「ゲーテの会」ブックレット (vol. 01092) 付『学習ガイド』
講 義 動 画	『岩倉使節団 150 年を機に「日本文明」の再興を考える ～受容する文明から需要ある文明へ～』
サブテキスト	瀧井一博著『文明史のなかの明治憲法』ちくま学芸文庫 (2023 年)
講 師	<p>瀧井 一博 (たきい かずひろ) 国際日本文化研究センター教授</p> <p>1967 年福岡県生まれ。京都大学大学院法学研究科博士後期課程を単位取得のうえ退学。博士 (法学)。神戸商科大学商経学部助教授、兵庫県立大学経営学部教授などを経て、現在、国際日本文化研究センター教授。専門は国制史、比較法史。角川財団学芸賞、大佛次郎論壇賞 (ともに 2004)、サントリー学芸賞 (2010)、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト賞 (2015) 受賞。主な著書に『伊藤博文』(中公新書)、『大久保利通』(新潮選書)、『増補版 文明史のなかの明治憲法』(ちくま学芸文庫) 他多数。</p> 

ウ 科学・技術分野

メインテキスト	『「応用をやるなら基礎をやれ」化学者たちの京都学派 ～福井謙一をはじめとする喜多源逸の後継者たち～』 IIAS「ゲーテの会」ブックレット (vol. 01082) 付『学習ガイド』
講 義 動 画	『「応用をやるなら基礎をやれ」化学者たちの京都学派 ～福井謙一をはじめとする喜多源逸の後継者たち～』
サブテキスト	古川安著『化学者たちの京都学派—喜多源逸と日本の化学』京都大学学術出版会 (2017 年)
講 師	<p>古川 安 (ふるかわ やす) 総合研究大学院大学客員研究員</p> <p>1948 年静岡県生まれ、神奈川県育ち。1971 年東京工業大学卒業。米国オクラホマ大学大学院博士課程修了。Ph.D. (科学史)。帝人株式会社を経て、東京電機大学教授、日本大学教授、化学史学会会長を歴任。専門は科学史。主著に『科学の社会史—ルネサンスから 20 世紀まで』(ちくま学芸文庫)、<i>Inventing Polymer Science</i> (University of Pennsylvania Press)、『化学者たちの京都学派—喜多源逸と日本の化学』(京都大学学術出版会)、『津田梅子—科学への道、大学の夢』(東京大学出版会) がある。2001 年日本産業技術史学会賞、2004 年化学史学会学術賞、2018 年英国化学史学会モリス賞、2022 年毎日出版文化賞、2024 年日本科学史学会特別賞受賞。</p> 

ウ 体験学習一心身の学

テーマ	<p>「アート思考」への誘い ～「対話型鑑賞」と「哲学対話」の協働を通じて体得する 「もう一つの知、身体知」～</p>
講 師	<p>戸澤 幸作（とざわ こうさく）京都市立芸術大学 美術学部 講師</p> <p>1987年東京生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。同大学院文学研究科博士課程単位取得。トゥールーズ第2大学（フランス）博士課程修了。博士（哲学）。現在、京都市立芸術大学 専任講師、高崎商科大学、学校法人マノ学園 真野美容専門学校、慶應義塾大学 非常勤講師。専門・関心領域は20世紀以後のフランス哲学、特にジル・ドゥルーズの哲学、哲学プラクティス。主要論文として、「「信じる」という概念の彫琢——『食人の形而上学』から『シネマ』へ」（『哲学』三田哲学会、第151号、2023年）など。</p> <p>哲学することを通して、「ともに考える」喜びを分かち合うことを何より大切にしています。</p> 
講 師	<p>寺元 静香（てらもと しづか）公益財団法人大原芸術財団 研究員・エデュケーター</p> <p>倉敷にある大原美術館で、未就学児から大学生までの学生団体の受け入れを担当しています。幼少期からアートやミュージアムに親しむ機会を提供することを目指し、来館される学生の皆さんに向けた鑑賞プログラムの提案・実施を行っています。特に、作品の解説にとどまらず、観察と対話を繰り返しながら鑑賞を深める「対話型鑑賞」を基点としたプログラムを取り入れています。</p>  <p>このプログラムでは、作品を自分の目で観察し、気づいたことや感じたことを他者と共有し対話することで、作品の見え方や自分自身の視点にも変化が生まれるかもしれません。こうした「気づき」や「発見」の体験を通じて、美術館という空間で新たな学びと感動を提供しています。</p> <p>経歴：2013年、都留文科大学 文学部 社会学科環境・コミュニティ創造専攻卒業。同年、公益財団法人大原美術館 社会連携課スタッフとして勤務。2024年～公益財団法人大原芸術財団にて研究員・エデュケーターとして勤務。</p>

【参考】

講義要旨

メインテキスト及び各担当講師による講義動画は、受講決定後、1月下旬には各受講者に配布・配信することとしておりますが、参考までに、本プログラムの基となっている「ゲーテの会」(※開催時のもの)における各講師の先生方のご講演要旨を借りて、その「あらまし」をご紹介します。

「IIAS 塾ジュニアセミナー」開催委員会事務局

① 「人類に託した希望書『道徳と宗教の二源泉』を著した大哲学者「ベルクソン」

(講師：瀧 一郎先生)

アンリ・ベルクソン (Henri Bergson, 1859-1941) はフランス・スピリチュアリズムの哲学者で、科学の実証性を重んじながら、経験に即して自然と精神との根拠を問う生命の形而上学を提唱した。哲学者として国際連盟の知的協力委員会の議長を務めるなど、思索の人として行動し、行動の人として思索する理論家にして実践者であった。「エラン・ヴィタール」の起源を求めて「愛」としての「神」へと導かれる最後の主著『道徳と宗教の二源泉』(1932) は、未曾有の危機に立つ現在の人類に託された希望の書である。二十世紀に始動した世界戦場化がテロリズムによって拡大され、迫り来る全面核戦争の危機を杞憂とばかり楽観できない今日、闘争本能を人間の本性と認めて、戦争は殆ど不可避と考えるベルクソンが、それにもかかわらず、人類の未来に絶望することなく世界平和への希望を語りうるのはいかにしてか。その哲学的遺言とも言うべきメッセージに耳を傾けてみよう。

② 岩倉使節団 150 年を機に「日本文明」の再興を考える—受容する文明から需要ある文明へ—

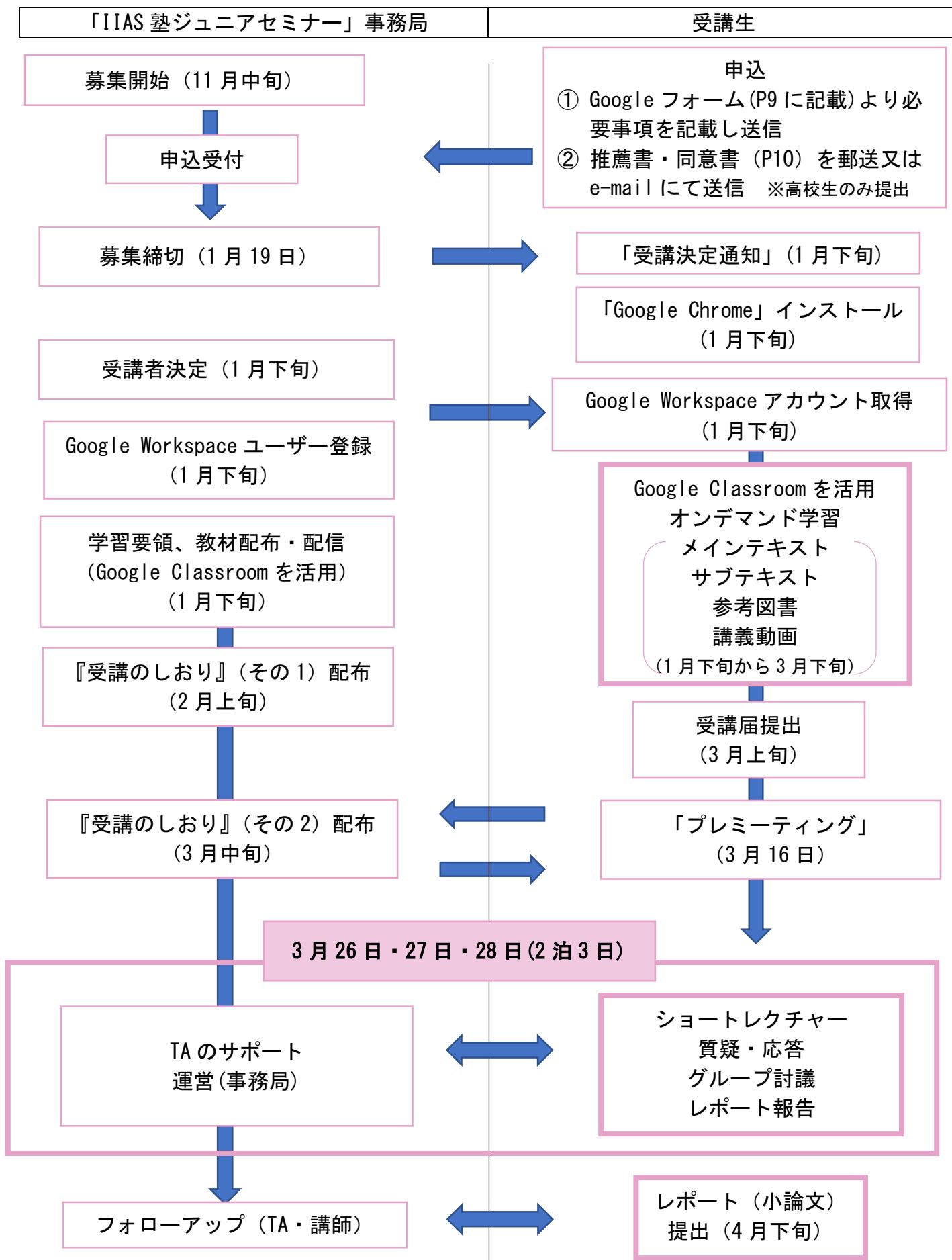
(講師：瀧井 一博先生)

今から 150 年前、岩倉具視を大使とする総勢 100 名を超える日本人が、1 年半以上の長きにわたって欧米諸国巡遊の文明視察の旅に出た。岩倉使節団である。それから 150 年の歳月が経過し、その間、日本は急速な近代化を遂げたが、21 世紀に入って日本は明治維新にも匹敵するような国家と社会の再編成の時に直面している。日本は今、新たな岩倉使節団を必要としているのかもしれない。21 世紀の岩倉使節団に求められているもの、それは、日本の文化的遺産を受け継ぎながら、世界の変化を学び取り、それに適応した新たな文明のあり方を国際的に発信する知的冒険である。

③ 「応用をやるなら基礎をやれ」化学者たちの京都学派 —福井謙一をはじめとする喜多源逸の後継者たち(講師：古川 安先生)

戦前から戦中にかけて京都大学工学部工業化学科教授の喜多源逸は、「化学の京都学派」と呼ばれる学派をつくり、独自の学風を植え付けた。その門下からは、桜田一郎、兒玉信次郎、古川淳二、小田良平から、ノーベル化学賞受賞者の福井謙一、野依良治、吉野彰らへと連なる才気あふれる化学者的一群が輩出した。理学部ではなく工学部でありながら「応用をやるなら基礎をやれ」という喜多の理念のもと、「化学の京都学派」は高分子化学、有機合成化学、量子化学など関連基礎分野の開拓とその研究者養成に顕著な役割を果たした。本講演では、とくに創始者の喜多源逸 (1883-1952) とその弟子で日本初のノーベル化学賞受賞者の福井謙一 (1918-1998) の研究者・教育者としての生き方、考え方を注目することで京都学派の学風を考え、科学技術における創造性や人材育成のあり方を考えるヒントを探って頂きたい。

受講までの流れ



応募方法について

提出（送信）するものは、次の2点です

- ① 申込フォーム（Google フォーム）より必要事項を記載し送信
- ② 「推薦書・同意書」（P10）は、郵送又はE-mail にて送信（※高校生のみ提出必須）

* いずれも締切は2025年1月19日（日）です

①申込フォームについて（Google フォーム）

■パソコンから

インターネットブラウザ（Internet Explorer, Microsoft Edge, Google Chrome など）を開き、IIAS 塾ジュニアセミナーのウェブサイト

（https://www.iias.or.jp/communication/junior_seminar）の「お申込み」をクリックし、Google フォーム にアクセス

■スマートフォンから

右記QRコードから申込専用サイト（Google フォーム）に直接アクセス



②「推薦書・同意書」について

高校生が参加する場合、提出が必須となります。

「推薦書・同意書」の様式を、公益財団法人国際高等研究所のホームページ
(<http://www.iias.or.jp/>) IIAS 塾ジュニアセミナーのページからダウンロード又は10ページをコピーし、以下のいずれかの方法で送付してください。

【E-mail】PDF にし、E-mail : iias19-2015@iias.or.jp に送付

【郵送】「公益財団法人国際高等研究所 IIAS塾ジュニアセミナー開催委員会事務局」宛てに送付

登録事項について

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1. 氏名（漢字） | 7. 性別 |
| 2. 氏名（ふりがな） | 8. e-mail アドレス |
| 3. 氏名（ローマ字） | 9. 連絡先（郵便番号・住所） |
| 4. 所属先（高等学校名又は大学名） | 10. 緊急連絡先（電話番号、e-mail アドレス） |
| 5. 学年 | 11. 受講の動機（200字程度） |
| 6. 生年月日 | 12. あなたの関心事項（200字程度） |

オンデマンド学習に関する確認について

1. オンデマンド学習を進めるために使用する端末はどれですか。（PC、タブレット）
2. 授業やミーティング等で「Google Classroom」を利用したことがありますか。
3. プレミーティングについて
4. その他、質問事項や特記することがあればご記入ください。

《問合せ先・申込み先》

公益財団法人国際高等研究所

IIAS 塾ジュニアセミナー開催委員会事務局

〒619-0225 京都府木津川市木津川台 9-3 Tel : 0774-73-4000 Fax : 0774-73-4005

E-mail : iias19-2015@iias.or.jp URL : <http://www.iias.or.jp/>

高校生は提出必須

I I A S塾ジュニアセミナー「独立自尊の志」養成プログラム－

推薦書・同意書

公益財団法人国際高等研究所
IIAS 塾ジュニアセミナー開催委員会
委員長 松本 紘 様

年 月 日

氏名

高等学校名・学年

推薦書(高校生の場合)

上記の者は、IIAS 塾ジュニアセミナーの受講生として、適格であると認めるので、その参加を推薦します。

高等学校教員(自署)

同意書(高校生の場合)

上記の者が、2025年3月26日、27日、28日の3日間、公益財団法人国際高等研究所が主催するIIAS 塾ジュニアセミナーの受講生として参加することに同意します。

保護者(自署)

*「推薦書」及び「同意書」の様式は、公益財団法人国際高等研究所のホームページ(<http://www.ias.or.jp/>) IIAS 塾ジュニアセミナーのページからダウンロードできます。ただし、Webによる申込みの場合は、本「推薦書」及び「同意書」をPDF化し、Web「申込書」に添付して送付してください。

提出期限：2025年1月19日(日)必着